

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1490400254
法人名	医療法人社団平平會
事業所名	グループホームふあいと山手の丘
訪問調査日	令和3年3月15日
評価確定日	令和3年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 2 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100254	事業の開始年月日	平成29年10月1日	
		指定年月日	平成29年10月1日	
法人名	医療法人社団 平平會			
事業所名	グループホーム ふあいと山手の丘			
所在地	( 231-0844 ) 横浜市中区西之谷町86-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔は何よりの薬です」を念頭に、入居者様・スタッフの笑顔が何より大切と思っております。入居者様の出来る事、好きな事を見つけ実現出来るようスタッフ一丸となり支援させて頂いております。「家庭的な雰囲気」を大切に入居者様が遠慮せずに「我が家」で生活されている時と同じ気持ちを持って頂けるよう臨機応変な対応も心掛けております。コロナ状況の中、身体を動かす機会や精神面(不安・寂しさ)のフォローにも力を入れています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月15日	評価機関 評価決定日	令和3年3月15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療法人社団平平會の経営です。同法人は、株式会社白寿会と共に介護と医療の連携を目指したグループ法人の「(株)白寿会・医療法人社団平平會グループ」です。法人では、介護と医療が連携することにより、認知症や重度化が進行しても、最期まで住み慣れた地域の中で継続して暮らせるよう、介護と医療面の両方から利用者を支えるサービスを提供しています。現在、横浜市、川崎市、鎌倉市内でグループホームを11ヶ所、看護小規模多機能型、訪問介護ステーション、小規模多機能型居宅介護など3ヶ所、クリニック2ヶ所を運営しています。ここ「グループホームふあいと山手の丘」はJR根岸線「石川町駅」から「元町」停留所まで歩き、106系統「本牧車庫行き」のバスで10分程の「千代崎町」停留所下車して徒歩5分程の、勾配を上って行った、閑静な住宅地の高台にあります。

●今年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、面会や外出の自粛を余儀なくされ、家族や友人の面会をはじめ、外出や地域交流なども実施できなかったことから、利用者の身体機能や精神面に考慮し、事業所内での行事開催を増やしたり、人気の少ないタイミングを見計らって散歩にお連れするなど、気分転換や下肢筋力低下防止に注力しています。また、法人からの感染症拡大防止のガイドラインに基づき、面会制限、室内の換気やアルコール消毒を徹底し、介護施設の職員であるという意識と自覚を持って行動するよう声かけしながら、ウイルスを持ち込まない・感染させないよう体調管理を徹底しています。

●昨年から職員も充足し、体制も整ってきたことで居室担当・各委員会・担当業務などを割り振り、職員が責任とやりがいをもって働ける環境づくりを行って行きたいと考えています。さらに、管理者は個人面談を通して個々の目標を把握し、職員が向上心を持って勤務できるようアドバイスや相談にのるなど、職員が意欲をもって働けるようフォローも心がけています。職員が充足してきた半面、介護経験の浅い職員も多く、法人のイーランニング研修に加え、介護実践、認知症、接遇マナーなど勉強会を定期的に開催し、職員の資質向上を図って行きたいと考えています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふあいと山手の丘
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の向上、法人理念を踏まえて、当ホームの理念に基づき、日々のサービスを実践し入居者様の生きがい、職員のやりがいに繋がるよう取り組んでいる。	法人の理念を踏まえ事業所独自の理念を作成し、事務所内に掲示しています。①利用者の笑顔を引き出すこと。②好きなこと、出来ることを見つけ、可能な限り実現に向けた支援を行う。をケアの根幹とし、利用者の生きがいを見出す支援に注力しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今期はコロナウイルス感染症の状況下にて自治会との交流の機会ももてなかったが、通勤時に近隣の方々へのご挨拶を行う、ゴミが落ちていたら拾う(通勤時以外でも行う)など地域の一員としての意識を持っている。	今年度はコロナウイルスの影響により自治会との交流機会を持てませんでした。出退勤時に近隣の方々に挨拶を行ったり、ゴミ拾いを日常的に行うなど、地域の一員という自覚を持って勤務するよう職員に周知しています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期はコロナウイルス感染症の状況下にて「運営推進会議」の開催は書面の活動になっており、ほとんど、発信は出来なかった。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」の開催はホーム運営上、不可欠と思ひ、今後もサービス向上のため活かして行きたいと思ひます。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加で2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状や活動報告に対する意見・提案、地域の情報をいただき、サービスの向上に活かしています。現在はコロナ禍のため、一堂に会しての開催は出来ませんが、書面による報告を行い事業所の実情を伝えています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れも多く、今期は他区からの移管手続きが完了し、中区の担当者様とは報告・相談など細目に行い協力関係を築いており、1月には中区役所開催の研修にオンラインにて参加、特養へ入居希望の入居者様へは地域のホームとの交流を密に行うなど取り組みました。	市や区から研修や講習会の案内が届いた際には職員に内容を周知し、参加を促すようにしています。生活保護受給者の受け入れも行っている関係で、区の担当者とは報告・相談などを細目に行うなど、協力関係も構築されています。今年度はオンラインにて区主催の研修会に参加した実績もあります。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回『身体拘束委員会』を開催(検討課題がある時はその都度)し理解を深めております。入居者様の行動を抑制せず、見守り、付き添いにて安全を図っておりますが、現在4名様が安全確保の為、ご家族様の同意を得て人感センサーの使用あり、市の実地指導に基づき玄関、窓(半分)の施錠実施中。	身体拘束委員会は3ヶ月に1回を目安(検討課題がある時はその都度)に開催しています。身体拘束委員会は事例や利用者の対応において人感センサーの使用も含めた身体拘束の必要性の有無について話し合い、対応を検討しています。現在は4名の方が安全確保の観点から、家族の同意を得て人感センサーを使用していますが、定期的に話し合いの場を設け対応を協議しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人マニュアルに沿って、職員間研修を実施、入居様との日々の関りで声掛け、支援方法の不適切な場面が見えられる時は見逃さずスタッフ間注意を仕合うなど防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識としては薄いが活用方法については役所に相談しながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には本部エリア担当(お客様担当者)が立ち合い十分な説明を行い、理解・納得を図っており、入居後も疑問点などその都度ご説明をし解決を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご報告・ご相談を細目に行い、ご様子をお伝えする機会を心掛け、来訪時には感謝の気持ちをお伝えし遠慮なくご意見を頂ける環境作りを大切に考えております。苦情発生時には職員間カンファレンスを行い、再発防止に努めております。運営推進会議開催にてご意見を賜り運営に反映させております。	契約書、重要事項説明書および運営規定にも苦情相談窓口や対応の流れについて明記されており、契約時に説明しています。家族からの意見や要望は、来訪時または電話連絡した際に近況報告と合わせて聴いています。家族からの意見や要望は時系列で書面に記録し、全職員に周知して早期解決につなげるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、積極的にコミュニケーションを図り、連絡ノート活用やフロア会議開催など意見、提案を協議しケアや業務に反映している。新しい職員も増え、個々の面談の中で自己目標の設定、振替りなどしっかりと行って行きたい。	管理者は職員の出退勤時、休憩時間、勤務中において職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案を聴いています。毎月のユニット会議では利用者のケアに関する内容を中心に、業務に関することについても話し合い、業務改善につなげています。職員の人員も充足していきことから、個人面談にて自己目標の設定及び振り返りを実施し、職員の意欲向上を図って行きたいと考えています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行っており、昇給、賞与等に反映されている。人員が充足されてきており、季節休、有給休暇の消化が出来ている。以前より向上心が高い職員が増え職場環境を今後も整えて行きたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部の研修の機会は困難であり、ホーム内研修として、介護技術、認知症状、感染予防等の勉強会の開催など進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今期はコロナ禍で交流の機会は困難で有ったが外部の研修はリモートによる参加を図りました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談にて、ご本人の要望をくみ取り、アセスメント、健康診断書を回覧し状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の面談時にご家族の要望、不安等の聴き取りを行っており、ご入居後も細目な連絡を心掛け、ご意見を伺う機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状態、要望を踏まえサービスを開始、その都度、必要なサービス内容を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様とは家族と同居している意識を持ち関係を築いている。日々のケアの中で自分の家族と置き換え、良いケアを提供出来るよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様を支えるため、ご家族の協力が不可欠であり、信頼関係を築くことを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において今期は交流の機会がほとんど持たなかったが、可能な方は電話や手紙のやり取りなど、関係性を大切にしました。	契約時に、差し支えない程度に友人や知人へ事業所に入居したことを伝えてくださいと家族に声かけしています。現在はコロナ禍のため、面会は制限していますが、以前までは家族や友人の来訪も多く、毎週外泊されている方、食事に行かれている方もいました。可能な方には、手紙や電話の取り次ぎなどの支援を行い、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の入居者様が多かった中、良い関係が保たれるよう座席の配慮や職員が積極的に関わり会話や共同で行えることを提供するなど、お互い支え合い生活出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された入居者様、ご家族との関係は継続できていない。特養など他施設に移行された方については、電話等でご様子を伺うなど努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員本位の暮らし方ではなく、自己決定が出来るように心掛けている。決まったタイムスケジュールが有っても個々の意向に沿った支援を図っている。自己決定が困難な方も二択を行う、表情を汲み取るなど努めている。	入居時のアセスメントで本人や家族、在宅時などのケアマネージャから趣味や嗜好、生活歴、既往歴、暮らし方の希望などを聞き取りながら基本情報シートを作成し、職員間で情報共有を図っています。支援を行う際には職員本位でなく、利用者の意思や意向を最優先とし、その方の生活サイクルなどを尊重して対応しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症状のある方の支援の第一歩として生活、家族歴など、入居前の情報収集が大切と思っており、アセスメントだけに頼らず、必要があれば、ご家族、利用されていたサービス事業所等に情報を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を理解し、好きな事、できる事を見つけ支援に繋げている。ご家族からの聞き取りも行っている。スタッフ間、記録や申し送り等で日々、情報共有を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成前にはご家族、ご本人の要望を拾い上げ、カンファレンスを実施、プランに反映させている、変化が有った時には臨機応変に見直しを行い現状に沿った介護計画書を作成している。	初回は、入居時のアセスメントで得られた情報を基に暫定の介護計画を作成し、1ヶ月様子を見ながら、ADLやIADLなどの状態について情報を収集しています。介護記録、ケース記録、業務日誌などの情報を基に原案を作成し、カンファレンスで課題やケア方法について意見交換を行いながら、現状に即した介護計画を作成しています。状態の変化が生じた場合は都度見直しを行っています。個別介護記録に短期目標を予め掲載し、常にモニタリングができるようにしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録には短期目標を予め掲載し、どのスタッフも日々、実践で来るよう取り組んでいる、スタッフ会議や日々の申し送り等でも情報の共有を図り、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では多機能化は出来ていない。ご要望があれば、訪問マッサージ、リハビリなどを取り入れては行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過にて今期は地域資源の活用は出来なかった、近所のスーパーでの買い物に同行し会計を行って頂くなど社会参加の機会を図りました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月4回の内科医の往診があり、日常の健康管理を行っている。専門的な診察が必要時には外部受診(かかりつけ医が有る場合はその病院)を行っている、外部受診では地域の可能な限り、同じ病院を利用し関係作りを行っている。	入居時に協力医療機関について説明し、本人と家族の希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。事業所の協力医療機関である「つくいけ内科クリニック」から月4回の訪問診療を受けています。専門的な診察や治療が必要な場合は紹介状を書いていただき、外部受診にて対応しています。歯科医は必要な方のみ契約して、義歯調整や治療、週1回の口腔ケアを受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師巡回があり連携ノート活用や職員も同席し日々の様子を報告、相談、入居者様の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期はコロナ過において入院時は面会禁止であったが、電話での情報交換や院内でのカンファレンスに参加し関係作りを大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今期、2名様が重度化の恐れがあり早い段階よりご家族の同意を得て他の医療関係者と連携、入院先の検討を行い、1名様のご家族、ご本人がホームでの終末期を希望され、他医療機関と連携しチームでの終末期の行う事ができた。社内研修もあり理解を深めている。今後も終末期ケアは重要と考えております。	入居時に「重度化した場合における指針」に沿って説明し同意書にサインをいただいています。状態の変化が見られた段階で一度家族との話し合いの場を設け、スムーズに医療機関と連携がとれるようにしています。今期は1名の方の看取りを行いました。早い段階から家族の意向を確認し、医療機関と連携してチームとして終末期ケアを行うことができました。今後も、看取り(終末期ケア)のニーズも増えてくるのが予想されるので、研修などを通じて職員の理解を深めていきたいと考えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて救急対応を学んでいるが、経験の浅い職員もおり、実践力には欠けている、コロナの収束時には消防署の協力も得て実践に向けての指導を受けたいと思っている。(去年、予定を立てていたが、コロナ過にて中止となった)現在は年2回防火・防災訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、災害訓練を実施、消火器・防火設備の訓練も行っている。地域と協力体制にはまだまだ、欠けている、備蓄品は期限など定期的に確認している。	夜間の火災想定で、年2回防災訓練を実施しています。消火器の取り扱い訓練、防災設備の操作方法についても確認し有事の際に対応できるよう備えています。自治会の訓練にも参加し、災害時における協力体制を構築していきたいと考えていた矢先のコロナウィルスの蔓延により、未だ構築までには至っていません。備蓄品は、水、食料、ラジオ、保温シート、衛生用品なども準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念でもある、入居者様の人格を尊重、プライバシーの確保には何よりも細心の注意図っております。相応しくない場合にはその都度職員間で注意し合い、ゼロを目標にしております。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送りやユニット会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	臨機応変を大切にご本人の思いを尊重し働きかけています。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居様のペースや希望に沿い、日々生活して頂けるよう支援しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好み、ご家族の意見も取り入れ、ご本人に洋服を選んで頂くなど、選択の機会を大切にしております。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけは出来る範囲で入居者様と行い、季節に合わせた行事なども行い、食を通して楽しさを持って頂いております。	食材はレシピ付きで業者から発注し、食事のメニューによっては、食事をよそったり、盛り付けを手伝っていただきながら残存能力の維持につなげています。事業所では、調理専門の職員も週何回か出勤しており、調理専門職員がいる時には、利用者に関わる時間を多く持つようにしています。季節に合わせた行事食、寒い時期には鍋料理を提供するなど、季節感を感じてもらえるように工夫しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士によるメニューを提供しております。咀嚼状態に合わせた柔らかさ、大きさにも適切に対応しております。水分摂取に対しては中々進まない方もおりチェック表を参考に好みの物なども取り入れ細目に対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	コロナ過にて週1回の歯科衛生士による口腔ケア管理は中止になってるも、問題がある時には電話にて相談を行いながら、毎食後口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し、個々の排泄パターンを把握しトイレでの排尿を支援、失敗の軽減、パットの種類など日々職員間で検討している。	入居間もないころは、排泄リズムを把握するために排泄チェック表やアセスメントを行い、その方のリズムやパターンの把握に努めています。日中は排泄表の記録を基に時間やタイミングを見計らってトイレ誘導を行い、自立排泄に向けた支援を心がけています。安易に排泄補助用品を使用するのではなく、アセスメントで失敗の軽減や支援方法を検討しながら対応しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には乳酸菌飲料の提供や運動、マッサージ等も取り入れている。水分量も日々チェックしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は午前入浴であるが、希望に応じて臨機応変に午後も行っている。会話を楽しんだり、季節に応じたお湯でリラックスできるよう心掛けております。同性介助を希望される方にも柔軟な対応しております。	週2回入浴を基本とし、安全に入浴していただくためにも事前にバイタルチェックを行ったうえで、本人の気分も考慮しながら入浴を促しています。また、入浴は皮膚疾患やアザなどの早期発見につながることも踏まえて、衣服の着脱時には身体チェックも欠かさず行っています。入浴拒否のある方は、無理強いせず、時間や日時を変えて声かけするようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣に応じた就寝時間、日中の休息はご希望、体調に応じ休んで頂いております。室温、照明、掛物など環境整備に配慮を行っている。眠れないときには、無理せず、ホットミルクなど提供し職員とのお茶の時間を楽しむ事もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅管理指導を受け、職員も個々の病状、薬の目的、副作用、用法等理解し、服薬マニュアル、ダブルチェックを徹底、誤薬・落薬・服薬忘れを防止、症状に変化がある時にはDr、Ns、薬剤師に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、出来る事を見つけ、達成に向けてケア内容に取り入れ、張り合い・喜びに活かしている、季節のイベント・お誕生日会・エステなど女性が好まれるイベントも取り入れている。リクエストを定期的に行い、出来る限りご要望に沿えるようにしております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期はコロナ過にて外出の機会は持てなかったが、ストレスに考慮し、個別に近所までの散歩を日々行っている。これからの桜の時期にはコロナ過に配慮し個別に車内からのお花見を企画しております。	年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、外出や地域交流の自粛を余儀なくされ、季節の外出行事や日常的な外出機会をもつことができませんでしたが、その分、事業所内での行事開催を増やしたり、人気の少ないタイミングを見計らって散歩にお連れしています。今後はドライブなどを中心に計画して、季節感を感じていただける外出を取り入れていきたいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本、ご家族、施設側で行っているが、買い物同行の際にはレジで支払いを行って頂くなど、社会参加の場を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話・お手紙のやり取りは随時可能である、最近は携帯電話を持参の方も増え、気軽に使用されております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる環境作りを心掛け、室温・照明・清潔に配慮し、快適な空間を提供しています。職員の声のトーン・足音・物音にも注意を払っています。最近はアロマディフューザーにて香りも楽しんでおります。	内装は白とダークブラウンを基調とした色合いで、奥行きのあるリビングになっています。リビングは窓も多く、日中は十分な明るさが確保され、適度に季節の作品や写真も飾られています。利用者の動線の妨げにならないよう、棚などの家具は極力控え、車椅子を使用している方も移動しやすいよう配慮されています。現在は加湿器や空気清浄機の設置に加え、換気やアルコール消毒も定期的に行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではある程度の座席固定はありますが、その時々で、お好きな場所で過ごして頂いています。使用しやすい位置に大きなソファを設置、クッション・ひざ掛け等を準備しリラックス出来る空間も作っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望される家具の搬入を取り入れている。馴染みの家具やお仏壇等設置される方も多く、居心地よく過ごされるよう配慮しております。安全性に問題がある場合にはご家族に相談し安全策を立てております。	各居室にはエアコンとクローゼットは完備されています。安心して生活していただくためにも、入居時には使い慣れた家具・寝具・調度品などを持ち込んでいただくように伝えています。人によって持ち込まれている品々や雰囲気も異なり、その人らしい居室づくりがされています。	今後の軽ぞk
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、歩行不安定な方でも手すり、手引き歩行にて歩行の機会を作っている。車椅子自乗時やリハビリの歩行訓練の場でもあるため障害がないよう環境整備を行っている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム  
ふあいと山手の丘

作成日

令和3年4月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人記録の問題</li> <li>1. 記録に時間が掛かる</li> <li>2. 個々の記録内容の差</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録時間短縮により入居者に関わる時間を増やす。</li> <li>・職員の負担を減らす。</li> <li>・特変時の記録をしっかりと記入。</li> <li>・ケアプランに沿った記録。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット導入を検討、当ホームに適したソフトを探していく。</li> </ul>	約6ヶ月間
2	23 24 25 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居担制度の問題</li> <li>1. 必要物品の管理</li> <li>2. 季節の衣替え</li> <li>3. ケアプラン作成に当たったのアセスメントを中心となり行う</li> <li>4. ご家族へのお手紙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の退職などで、安定した制度導入が困難であった為、新たに制度を作り行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力を考慮し1～2部屋を担当とする。</li> <li>・必要物品の購入先、家族への確認等取り決めの説明。</li> <li>・手紙を書く歳の言葉使いの理解。</li> </ul>	約6ヶ月間
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体介助の基本を学び直す。</li> <li>・感染症・事故発生時の対応・身体拘束、虐待防止等。</li> <li>・認知症状の基本を学び直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修または勉強会を1ヶ月に2回開催目標に行う。</li> </ul>	約12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームふあいと山手の丘
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の向上、法人理念を踏まえて、当ホームの理念に基づき、日々のサービスを実践し入居者様の生きがい、職員のやりがいに繋がるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今期はコロナウイルス感染症の状況下にて自治会との交流の機会もてななかったが、通勤時に近隣の方々へのご挨拶を行う、ゴミが落ちていたら拾う(通勤時以外でも行う)など地域の一員としての意識を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期はコロナウイルス感染症の状況下にて「運営推進会議」の開催は書面の活動になっており、ほとんど、発信は出来なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」の開催はホーム運営上、不可欠と思ひ、今後もサービス向上のため活かして行きたいと思ひます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れも多く、今期は他区からの移管手続きが完了し、中区の担当者様とは報告・相談など細目に行い協力関係を築いており、1月には中区役所開催の研修にオンラインにて参加、特養へ入居希望の入居者様へは地域のホームとの交流を密に行うなど取り組みました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回『身体拘束委員会』を開催(検討課題がある時はその都度)し理解を深めております。入居者様の行動を抑制せず、見守り、付き添いにて安全を図っておりますが、現在4名様が安全確保の為、ご家族様の同意を得て人感センサーの使用あり、市の実地指導に基づき玄関、窓(半分)の施錠実施中。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人マニュアルに沿って、職員間研修を実施、入居様との日々の関りで声掛け、支援方法の不適切な場面が見えられる時は見逃さずスタッフ間注意を仕合うなど防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識としては薄い活用方法については役所に相談しながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には本部エリア担当(お客様担当者)が立ち合い十分な説明を行い、理解・納得を図っており、入居後も疑問点などその都度ご説明をし解決を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご報告・ご相談を細目に行い、ご様子をお伝えする機会を心掛け、来訪時には感謝の気持ちをお伝えし遠慮なくご意見を頂ける環境作りを大切に考えております。苦情発生時には職員間カンファレンスを行い、再発防止に努めております。運営推進会議開催にてご意見を賜り運営に反映させております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、積極的にコミュニケーションを図り、連絡ノート活用やフロア会議開催など意見、提案を協議しケアや業務に反映している。新しい職員も増え、個々の面談の中で自己目標の設定、振替りなどしっかりと行って行きたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行っており、昇給、賞与等に反映されている。人員が充足されてきており、季節休、有給休暇の消化が出来ている。以前より向上心が高い職員が増え職場環境を今後も整えて行きたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部の研修の機会は困難であり、ホーム内研修として、介護技術、認知症状、感染予防等の勉強会の開催など進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今期はコロナ禍で交流の機会は困難で有ったが外部の研修はリモートによる参加を図りました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談にて、ご本人の要望をくみ取り、アセスメント、健康診断書を回覧し状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の面談時にご家族の要望、不安等の聴き取りを行っており、ご入居後も細目な連絡を心掛け、ご意見を伺う機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状態、要望を踏まえサービスを開始、その都度、必要なサービス内容を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様とは家族と同居している意識を持ち関係を築いている。日々のケアの中で自分の家族と置き換え、良いケアを提供出来るよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様を支えるため、ご家族の協力が不可欠であり、信頼関係を築くことを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において今期は交流の機会がほとんど持てなかったが、可能な方は電話や手紙のやり取りなど、関係性を大切にしました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の入居者様が多かった中、良い関係が保たれるよう座席の配慮や職員が積極的に関わり会話や共同で行えることを提供するなど、お互い支え合い生活出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された入居者様、ご家族との関係は継続できていない。特養など他施設に移行された方については、電話等でご様子を伺うなど努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員本位の暮らし方ではなく、自己決定が出来るように心掛けている。決まったタイムスケジュールが有っても個々の意向に沿った支援を図っている。自己決定が困難な方も二択を行う、表情を汲み取るなど努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症状のある方の支援の第一歩として生活、家族歴など、入居前の情報収集が大切と思っており、アセスメントだけに頼らず、必要があれば、ご家族、利用されていたサービス事業所等に情報を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を理解し、好きな事、できる事を見つけ支援に繋げている。ご家族からの聞き取りも行っている。スタッフ間、記録や申し送り等で日々、情報共有を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成前にはご家族、ご本人の要望を拾い上げ、カンファレンスを実施、プランに反映させている、変化があった時には臨機応変に見直しを行い現状に沿った介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録には短期目標を予め掲載し、どのスタッフも日々、実践で来るよう取り組んでいる、スタッフ会議や日々の申し送り等でも情報の共有を図り、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では多機能化は出来ていない。ご要望があれば、訪問マッサージ、リハビリなどを取り入れては行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過にて今期は地域資源の活用は出来なかった、近所のスーパーでの買い物に同行し会計を行って頂くなど社会参加の機会を図りました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月4回の内科医の往診があり、日常の健康管理を行っている。専門的な診察が必要時には外部受診(かかりつけ医が有る場合はその病院)を行っている、外部受診では地域の可能な限り、同じ病院を利用し関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師巡回があり連携ノート活用や職員も同席し日々の様子を報告、相談、入居者様の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期はコロナ過において入院時は面会禁止であったが、電話での情報交換や院内でのカンファレンスに参加し関係作りを大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今期、2名様が重度化の恐れがあり早い段階よりご家族の同意を得て他の医療関係者と連携、入院先の検討を行い、1名様のご家族、ご本人がホームでの終末期を希望され、他医療機関と連携しチームでの終末期の行う事ができた。社内研修もあり理解を深めている。今後も終末期ケアは重要と考えております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて救急対応を学んでいるが、経験の浅い職員もあり、実践力には欠けている、コロナの収束時には消防署の協力も得て実践に向けての指導を受けたいと思っている。(去年、予定を立てていたが、コロナ過にて中止となった)現在は年2回防火・防災訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、災害訓練を実施、消火器・防火設備の訓練も行っている。地域と協力体制にはまだまだ、欠けている、備蓄品は期限など定期的に確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念でもある、入居者様の人格を尊重、プライバシーの確保には何よりも細心の注意図っております。相応しくない場合にはその都度職員間で注意し合い、ゼロを目標にしております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	臨機応変を大切にご本人の思いを尊重し働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居様のペースや希望に沿い、日々生活して頂けるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好み、ご家族の意見も取り入れ、ご本人に洋服を選んで頂くなど、選択の機会を大切にしております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけは出来る範囲で入居者様と行い、季節に合わせた行事なども行い、食を通して楽しみを持って頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士によるメニューを提供しております。咀嚼状態に合わせた柔らかさ、大きさにも適切に対応しております。水分摂取に対しては中々進まない方もおりチェック表を参考に好みの物なども取り入れ細目に対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	コロナ過にて週1回の歯科衛生士による口腔ケア管理は中止になってるも、問題がある時には電話にて相談を行いながら、毎食後口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し、個々の排泄パターンを把握しトイレでの排尿を支援、失敗の軽減、パットの種類など日々職員間で検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には乳酸菌飲料の提供や運動、マッサージ等も取り入れている。水分量も日々チェックしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は午前入浴であるが、希望に応じて臨機応変に午後も行っている。会話を楽しんだり、季節に応じたお湯でリラックスできるように心掛けております。同性介助を希望される方にも柔軟な対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣に応じた就寝時間、日中の休息はご希望、体調に応じ休んで頂いております。室温、照明、掛物など環境整備に配慮を行っている。眠れないときには、無理せず、ホットミルクなど提供し職員とのお茶の時間を楽しむ事もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅管理指導を受け、職員も個々の病状、薬の目的、副作用、用法等理解し、服薬マニュアル、ダブルチェックを徹底、誤薬・落薬・服薬忘れを防止、症状に変化がある時にはDr、Ns、薬剤師に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、出来る事を見つけ、達成に向けてケア内容に取り入れ、張り合い・喜びに活かしている、季節のイベント・お誕生日会・エステなど女性が好まれるイベントも取り入れている。リクエストを定期的に行い、出来る限りご要望に沿えるようにしております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期はコロナ過にて外出の機会は持てなかったが、ストレスに考慮し、個別に近所までの散歩を日々行っている。これからの桜の時期にはコロナ過に配慮し個別に車内からのお花見を企画しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本、ご家族、施設側で行っているが、買い物同行の際にはレジで支払いを行って頂くなど、社会参加の場を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話・お手紙のやり取りは随時可能である、最近は携帯電話を持参の方も増え、気軽に使用されております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる環境作りを心掛け、室温・照明・清潔に配慮し、快適な空間を提供しています。職員の声のトーン・足音・物音にも注意を払っている。最近はアロマディフューザーにて香りも楽しんでおります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではある程度の座席固定はありますが、その時々で、お好きな場所で過ごして頂いています。使用しやすい位置に大きなソファを設置、クッション・ひざ掛け等を準備しリラックス出来る空間も作っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望される家具の搬入を取り入れている。馴染みの家具やお仏壇等設置される方も多く、居心地よく過ごされるよう配慮しております。安全性に問題が有る場合にはご家族に相談し安全策を立てております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、歩行不安定な方でも手すり、手引き歩行にて歩行の機会を作っている。車椅子自操時やリハビリの歩行訓練の場でもあるため障害がないよう環境整備を行っている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム  
ふあいと山手の丘

作成日

令和3年4月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人記録の問題</li> <li>1. 記録に時間が掛かる</li> <li>2. 個々の記録内容の差</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録時間短縮により入居者に関わる時間を増やす。</li> <li>・職員の負担を減らす。</li> <li>・特変時の記録をしっかりと記入。</li> <li>・ケアプランに沿った記録。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット導入を検討、当ホームに適したソフトを探していく。</li> </ul>	約6ヶ月間
2	23 24 25 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居担制度の問題</li> <li>1. 必要物品の管理</li> <li>2. 季節の衣替え</li> <li>3. ケアプラン作成に当たったのアセスメントを中心となり行う</li> <li>4. ご家族へのお手紙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の退職などで、安定した制度導入が困難であった為、新たに制度を作り行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力を考慮し1～2部屋を担当とする。</li> <li>・必要物品の購入先、家族への確認等取り決めの説明。</li> <li>・手紙を書く歳の言葉使いの理解。</li> </ul>	約6ヶ月間
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体介助の基本を学び直す。</li> <li>・感染症・事故発生時の対応・身体拘束、虐待防止等。</li> <li>・認知症状の基本を学び直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修または勉強会を1ヶ月に2回開催目標に行う。</li> </ul>	約12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。